

第二部

これからの百歩

現役座談会

令和元年、早スポの日常

1959年に創刊された『早稲田スポーツ』は令和元年、60年目の還暦を迎えた。創刊した方々が60年後のことなんて考えてもいなかったであろう。新聞発行という意思は資金が足りなくなったり、部員が少なくなったりした時も乗り越えて、今もしつかり、受け継がれている。

最初は4人から始まって、最近では200人の部員がいるという。創刊メンバーはこんなたくさんさんのメンバーで活動する時代が来ることも、露ほども想像していなかったはずだ。

昔は紙と鉛筆。今やスマホが記事を書くツールだ。この隔世を見よ。現役部員に日々の活動と意識を聞いた。

現役参加者

小松純也・編集長（政経3年・早大学院）

石井尚紀・主務（政経3年・城北）

永池隼人（政経3年・早大学院）

森迫雄介（商3年・独協）

涌井統矢・業務（商3年・早実）

小田真史・ラグビーチーム（文3年・早実）

10月上旬、早稲田奉仕園にて

OBの発言は——（棒線）で統一した。

180人の大部隊は女性優位

——今の現役部員は何人いるの？

永池 1年生は95人です。新歓（新入生歓迎活動）時期に興味を持ってくれる子がたくさん来てくれました。夏の合宿に全員は来ないんですが。

森迫 合宿に来るのは30、40人ぐらい。

永池 とりあえず籍を入れてみるという子がいる。

小松 3年までで180人ぐらいですね。引退された4年は38人。3年間、最後までやった方。僕ら3年は40人です。2年は50人弱ぐらいですね。実は幽霊部員もいて。1年生95人を入れるのは入り口を広くしてる。新聞製作だけではなくて、カメラの好きな人、スポーツが好きな人も入れればいい。やっていって、ほんとに興味のある人が残っていけば。今はそのやり方は間違っていないと思います。男女比は4対6ぐらいですね。3年生は16人对24人で女子が多い。もともと、僕たちは81人いたんですけど、当時から女子が多かった。

森迫 2年も女子が多くて絶対、女子政権でしょ。今年の1年生も特にそうだし、一つ上もそう。トータルでも1対2まではいかないですけど、女子が多い。

涌井 2対3ぐらいですね。

——新歓を一生懸命にやるよね。

小松 今の2年生が1年生を集めるための新歓チーフを決めて、半年近くかかって準備します。

永池 気合が入りますよ。他のサークルは3年がやることが多いですが、うちは取材があつたりするので2年がやります。

小松 いつからかは把握してないですが、かなり前の代からやってると思います。

永池 3年は関わらないで2年生が主体。新歓コンパのような食事にサポートで3年は10人ぐらいで数回、顔を出したりしますが、基本的には2年生中心に。3年はまったくいかなない食事会もあります。

森迫 足りなかったら行くよ、というスタンスです。

—— 1年は全員、把握できましたか。

小松 1年生が自己紹介冊子を作ります。上級生はそれをもらって覚えるし、彼らも作る過程でお互いに覚える。

永池 新歓活動の時にこちらが現役部員の紹介冊子を作って、1年生は自分たち



右から現役3年生の石井、涌井、永池、小松、小田各氏



1年生成成のプロフィール冊子

のものを作る。伝統になってます。95人が載ってます。

小松 1ページに4人の顔のイラストがあつて、プロフィールが載った簡単なものですが。編集長的にはめっちゃくちゃ、ありがたいです。自分が認知されてるのに、1年を覚えないと申し訳ないので。

森迫 彼らには最初の編集作業。何か物を作るといふ部分では。

永池 同期でそこから仲良くなったりする。

森迫 最近では地方出身者が少ないですかね。僕らもみんな、自宅生です。

小松 内部出身者が多い。

森迫 あ、俺だけじゃん、外部からの入学は（石井君不在の時間帯での発言）。

永池 でも地方もけっこう、幅広いですよ。

森迫 北海道がいるし西は鳥取まで。でも内部生が一番、多い。特に学院が。

永池 すみません！

小松 来年の編集長も学院。

森迫 去年も学院だった。学院と早実との人数比を考えたら、トントンぐらい。
1対1。

スポーツについて深く語れる場

——小松君と永池君は学院でスポーツをやってたの？

永池 一緒に軟式野球をしました。

小松 早スポはマイルストーンというサークル紹介のミニコミ誌があつて、そこで見ました。サークルは真面目なものに一つ入りたいなど調べていて、出版系に興味があつた。スポーツと出版が合致して。学院出身の3年の石崎というのがいて、彼と新歓に行つてみよう。考えていたものと差がなかった。それでのめり込んで、続けてきました。

永池 野球サークルを続けようというのはあつて、もうひとつ、早稲田に来たんだから大学生にしかできないものはないかなと。小松に新歓に誘われて。先輩の

雰囲気がよくて、見る側でも楽しいだろう、いいサークル生活になるだろうなど。

小松 自分も人で選んだところはありますね、先輩たちがいい方で。

—— 早スポがあるというのは知っていた？

小松 ぜんぜん知らなかった。

永池 僕も知らなかったです。

小松 中には知ってるメンバーもいるんですよ。高校から知ってましたとか。

永池 学院の時に早慶戦に応援とか行くんですが、配ってるのを知らなくて。

小松 マスコミのサークルですが純粹にマスコミ志望はほとんど減ってると思います。こういう言い方するとあれですが、早スポやってマスコミの悪い部分というか（笑）それが見えてきて、嫌に思っちゃう人はいるかなと。

永池 自由で学生という身分で楽しいのかなと思う部分もある。自由に書けるじゃないですか。また逆に、webのコメントを書き込む欄とか見て、自分の記事を否定されて、こんなふうに見られているのかと、嫌だなと思います。渾身の

記事がデイスられると（笑）

森迫 ああ、あるかな（笑）学生で身分が守られてるものがあるかも。

永池 学生で片づけられて、最悪なこともあるかもしれないけど。

小田 僕は早実でラグビーをしてました。ラグビーに憧れがあつたんですが、バイトで知り合った早スポの先輩がいて、サークルのことを教えてくれて、よかつたらおいでと。新歓に行つて、入っちゃいました。きつかけは小さいんですが（笑）

高校の時に新聞も、もらったことはあります。大学選手権の決勝や早明戦でもらつたり。家にまだ昔の新聞があつて、これか、とちよつと感激した。

涌井 僕は早実でアメフトをやつていて、大学でもアメフトに1回、入つたんですが、練習も厳しいし金銭的にも時間的にも厳しいかなと。早スポの入会期限が6月で、ギリギリで何をしようかなと。高校のアメフトの先輩が早スポの一つ上にいた。それでアメフトに関われればなど。今はアメフトのチーフをやらせても

らっています。

森迫 僕は1年浪人して入ったんですが、高校ではサッカーをやっていた。サッカー部でやるつもりはなかったんですが、サークルでサッカーをやって大学生活を謳歌しようと思っていたんです。でも4、5月ぐらいに何か違うなど。同期の主務の石井が同じ予備校で浪人していて、僕より早くに早スポに入っていて、どう、みたいな感じで。見る専門でサッカーに関われたら、それも面白いかなと。サッカーのサークルは直ぐに辞めました。スポーツについて突っ込んで深く語れないんです。早スポは語れる人がいるので。

石井 僕も外部生、浪人してました。ラクロスは去年チーフでした。今は主務を寂しくやってます（笑）主務は合宿のしきりと降版した時の飲み会のしきりと。他に大学の芸術週間があるんですが、その文化企画参加とか、競技スポーツセンターと連絡を取ったりが仕事です。

小松 いわゆる幹事長らしいことをしているといます。

石井 サークルの書類を提出したり。

永池 雑用、ありがたい。

石井 雑務ですね、何でも屋。役職を決める流れは編集長といっしょです。僕が牽制球を投げまくっていたので、立候補は一人だけでした。

永池 おまえなあ（笑）

森迫 1年生のころから言っていた。

石井 1年の夏合宿が終わった後に主務やりたいと言っていたんで。性質がイセント系なんです。みんなが楽しめる環境作りができるかなと。二つ上の方がそういう方で懂れて。

小松 あとは業務チーフがいて。渉外、広報、記録、会計などがあります。

石井 会計はすごく大事です。

小田 他に連盟。カメラ。

小松 連盟は新聞コンテストに関わったり、他大学との連絡を。

永池 12月のコンテストは連盟担当が関わる。

小松 あれはいつからやってるんだらう。10年ぐらい？　ここ数年は明スポがずっと1位です。主催社の担当者が明スポOBで、負け惜しみじゃないんですけど、どうせそうだろうなと（笑）

石井 でも、すごいです。リスペクトです（笑）

—— 他の人は早スポは何で知るの？

石井 マイルストーンが意外と多い。

—— 僕の一つ下のやつは3月の時点で、「早稲田に入学する者です。4月1日に部室に伺います」と予告ハガキを送ってきたのがいた。すげえ奴いるなと（笑）
小松 3月に入会方法を聞いてきたのはいます。

編集長決定と合宿模様

—— 編集長は2年で決まる？

小松 2年の6月ぐらいに決まります。新歓を4月から6月までやって。それが終わった瞬間に3年の役職を決める流れです。

永池 怒涛の流れだよな（笑）

小松 その学年で決めます。立候補が一人だけでも信任投票しますし、二人以上なら多数決で。僕らの代は二人で多数決を。同時に主務と業務と三役を決めます。主務と業務は一人ずつでした。来年の編集長も決まっています立候補は一人でした。「まあ、あいつだよな」というのはあらかたあって、そうになりましたね。

—— 役職は増えたよね。編集長の仕事は減ったの？

小松 役割分担がはっきりしました。

永池 編集長は入稿は作業に集中できるようになって。校閲という担当は記録、表記、言い回し、事実確認ですね。チーフがいて部隊が24人いて。入稿の作業中はシフトを組んで回して、印刷所に来ます。

石井 印刷所に一日2、3人。入稿中、1回は来いよと。

—— 語彙の豊富な人がやってる？

石井 ウィットにとんだ（笑）立候補する子がそういう子たちなんで。記事を書くとか、読もうとか好きな子たち。

—— 草創期と共通するものがあるのと、違ったものもあるね。

小松 後者の方が多いと思いますよ、変わった部分の方が多い。

—— 僕らの頃は記事を書かない専属のカメラマンがいた。野球とラグビーは必ず、担当するの？

小松 ぼくが1年生の担当を振り分けるんですけど、野球とラグは希望通りに入れてあげるんです。今年の1年生は野球が55人で残りはラグです。

涌井 40人がラグ。

小松 野球は3年までで100人近くいるということになりますね。

小田 ラグビーは79人です。

—— 全員で見に行くの？

小松 野球は8人ぐらいです。

永池 多くても15人ぐらい。

小松 どっちかには入ってるんですが、他に興味がある競技があれば、そっちに優先していく。

小田 全種目はカバーしているけど、ギリギリだよな。

森迫 新歓コンパは4月にします。4月にいろんなリーグ戦が始まるので、体験取材を用意してあげて、こういう感じでやるんだよと。

小田 あれがないとイメージがわからない。

永池 1年生に選択する機会を与えている。

森迫 4月に門戸を開いてますよと勧誘して、体験取材で実践させて、正式に6月入部です。

小松 第1週ぐらいですね。早慶戦に最期の新歓イベントがあつて。

永池 そこに来たら入部という感じですね。

小松 バーベキューはGWに開いています。

永池 食事会の延長のような。GWだから、楽しましょうと。

森迫 毎年やっています。

小松 葛西臨海公園のバーベキュー場で。納会は試験が終わる8月の2、3日とか。
—— 僕の際は早慶戦の打ち上げをやっていた、第3戦の夜に。正式な行事だった。あとは後期の納会を1月にやって。

永池 納会はやっています。あと追いコンと。高田牧舎で公式なものはやっています。

小田 牧舎の追いコンでは1年生は参加してません。

小松 全員は入れないし、4年と1年は関わりがないので、お互いに気を遣っちゃうんで。

永池 知ってる代で追いコンはやる。

—— 夏の合宿は。

森迫 今年は越後湯沢に。

永池 なかなか全員参加にはならない。

小松 どの時期をとつても取材と重なっちゃうので。

永池 帰省するのもある。

小松 何人ぐらいいたかな。60人ぐらい？

森迫 53人だった。半分に満たないですね。

永池 勉強会、ミーティングはしないよね。やるとしても担当で集まるとか。こじんまりと。合宿で会議はないです。

小松 合宿での会議は僕の方針で、好きじゃなくて。親睦を深めるために集まってるので。一昨年などやってる代はありましたけど。

永池 時期によつては議題が少なくて、合宿でやる議題じゃないなど。

小松 納会で前期の課題の洗い出しをしてる。

永池 今回の合宿は全部、レクリエーションだったから、楽しかったよね。

小松 全レクにしました。

——冬の合宿はスキーに行くの。

小松 やったんですが、やることないんですよ。

永池 ぜんぜん、来ないしな。僕らの代の4人ですよ。

小松 楽しかったけどね。

永池 ただの同期旅行。下の代はゼロです。

森迫 来期以降、冬はなくなるかもしれないです。

永池 今年は申し込んで、広告とか付き合いがあつたりするところで断れ

ないから、4人でもいいから行くしかない。強制じゃないですね。

森迫 しいて言えば、納会は強制なんですけど、それでも来ないのがいて、まち

まちですね。

永池 強制するにも人数が多すぎますね。部じゃないんで。

小松 僕たちの意識はそうですね。

——様変わりはしてるね。

永池 そうなんでしょうね。

小田 8月にラグビー部の合宿があるので、ラグビー班も菅平に行きます。今年
は練習試合と対抗戦の公式戦もあったので、1年生をどこかの日に合わせて連れ
て行きました。そこで初めてラグビーを見る子もいて。40人ぐらい行った。

小松 僕は野球班なんです、編集長だとわがまま言っただけで行きました。

永池 僕も野球班なんですけどドライバーがいらないと言われて行きました。

小田 レンタカーを借りていきます。何台かに分けて1台に8人ぐらい1、2、3
年生をごちゃ混ぜにして。今年は菅平に4回ぐらい行きました。

森迫 めっちゃ、往復してたよ。

永池 もう、住んじゃえよって（笑）

小田 セミナーハウスはラグビー部員が120人ぐらいいて、いっぱいになっ
ちゃう。早スポは泊れない。

小松 合宿費用は少しは部費から出せばいいのかな。

永池 出していいんじゃないの。

小田 まあ、遊びもあるから。毎年、やってるので、見積もりを出して合宿費を集める。安く済むようなコテージに泊まったり、クーポン使ったり（笑）計算して後日、余ったり返します。永池 クーポン大事（笑）

編集会議と企画会議

——早慶戦号（11月2日発行）は1面担当、決まってる？

小松 秋野（秋の野球号）ですね。学年合宿が2年の1月ぐらいにやるんですが、自分たちの代で作る1面の面担者は全部決めます、裏面も。裏は2年が作る号もあるんで3年生が作る面としては15、16人ぐらいです。

永池 3年で野球の1面担当は春と秋の野球号の二人です。

小松 そこで決まるのは野球取材を一所懸命にやってる人にはなりますね。

永池 やりたいと志願するんで。

小松 どの面でもいいから1面をやりたいという者と、野球号の1面か裏で関わりたいという者という。

永池 シンプルにどの号でもいいから1面を作りたいたと、10月号の準硬式の1面は僕が面担だけしました。準硬の優勝の取材は担当が多くても3、4人で行ってゐるはずで。

小松 あの1面は面担者と取材は別なんです。

永池 僕は1年生の10月号で一度、面担をやっていて、最後にもう1回やろうとそれがたまたま今回、1面が準硬式だったという。

小松 新聞製作に興味ない人もいて、面担を志願しない人もいます。野球チームの石崎は面担はしないでその他を統括します。記事もあいつを通さないと出稿しない。

永池 間違いがないか事実確認、過去に書いたものと重ならないかとか。記録が合っているか。校閲と違う作業です内容面での。

小松 あいつが一番、知ってるんで。理にかなってると思います。

永池 小田はラグビーを背負ってる。

小田 多分、そうなると思います。

永池 新聞に関わる場所は、名前の間違いないかともちろんだし、すべて見ることになると思います。

小松 野球と違って、秋に続けて、どっと入稿があるし、たいへんだよな。

小田 やめてよ(笑)

永池 しんどいぞ。(笑) がんばれよ。

小松 準硬式を10月号で扱うのは一週間ぐらい前の編集会議で決まりました。野球号は紙面会議と編集会議を分けていて、野球でだれを扱うかは野球班の紙面会議で決まるんです。

結果面は野球と別で、どれをどう扱うかは編集会議で決めます。編集会議は他の部活がどれくらいの大きさで原稿を出したいか、というのを決める。出稿する

部活のチーフ、20人ぐらいが来ますが、興味のない人は来ませんね。出稿したい人がアピールして勝ち取る。落ちることはないんですが、大中小の大きさを決める。10月号はほとんどが優勝だったんで、どの部も大きく扱ってもらいたかったはず。

以前、アイスホッケーが早慶戦で42年ぶりに負けて、逆にインパクトがあった。大きさはトップ、サブ、3番目というんですけど、アイスホッケーはその面の2番手を取れたんです。

——早慶戦号の企画は。

涌井 仙台育英の監督に会いに行くらしい。1年生の企画面担当がいるんです。

永池 テーマを決めて誰を取材するか。野球チーフ石崎がサポーターして。

小松 1年生は大仕事だと思います。

小田 野球に関連すればなんでもいい。

永池 サークルだから好きなようにやれる。立場を上手く使いながら。

森迫 ア式の早慶戦号は費用はいくらか出してもらってます。男女合わせて20万。去年は裏表の1枚だけだったんですが、今年は印刷所を移して4面に出来ました。小松 他の部も、資金をもらって作ってるのを号外と言ってるんですが、そういう意味でレガッタ号も号外にはなる。

石井 漕艇部も出してくれます。他の部は勝ったら随時、号外ですな。

小松 去年は甲子園ボウルにアメフト部が出たんで。2面作って。箱根号と一緒に出しました。

38年ぶりに印刷所変更

—— 今年海外に取材に行った人は？

石井 いないです。去年は剣道で行ってます、韓国の高麗大に。

—— 行く人が自費でいく？ 経費を出してあげることはないの？

小松 先日、ちよつと経費の制度を作りました。説明するのが難しいくらい細か

く複雑な基準があつて。こういう時はちよつと出すよと。でも、その取材は行く必要があるのかという議論もあつたよね。お金をもらうために行くやつも出てくるとか。

永池 あつた、あつた。

石井 議論は3年でやって、会計が大枠を作つて。

小松 お金は余裕があるんです。

永池 遠征に4回以上行つたら、いくら分は支給しますよと。

森迫 1泊につき1000円をという感じで。

永池 ようやく、ルールが出来ました。

小松 いちおう画期的ですね。もつと出してもいいのかもしれないんですが、公平性という面で議論があつて。お金なんて慎重に始めてる感じですね。まあ、今の制度も自分たちの代で有効にしてるだけです。来年はどうなるか。

永池 1年生も大丈夫です。遠征の定義をしたんです。

涌井 遠征とするのは往復1万円とか。愛知とか関東以外です。泊まりがなければ交通費往復1万円以上とか、緩くやってる感じです。

小松 もらえる分に越したことはないと思います。

永池 こまかい基準が他にもあります。

小松 お金は相応に余ってます。印刷所を変更したことで制作費が安くなった。

森迫 それと新歓で部費が入るので。1年生は半期5000円で、後期にもう5000円。2、3年生からは年初めに1万円を。部費で年間200万ぐらいあるということですよ。

小松 制作費は部数によっても変わるんですが、春の野球号は12面あって、カラーが5面。4000部刷って、60万ぐらいでした。安いですよ。

—— 僕らの時(2000年前後)は100万ぐらいです。

小松 日刊は春野は100万かかってました。

永池 その時点でシンプルに40万浮いてるということですよ。

小松 正確には（スマホで確認）製作費は56万でした。1000円で売って2800部売れました。残りは定期購読分とバックナンバーとか取り置きしておいて。

小田 定期購読は300件ぐらいじゃないですか。

小松 広告の収入は30、40万とか。黒字になってるわけだから、もつとか。

涌井 50万ぐらい入ってると思います。広告費は小さいので5000円。それを基準に。横の全1段で20000円です。広告集めは業務チーフは新しいのを探してくれたりはしてますが、その他の業務担当は今までのものを引き継いでやっている感じです。去年は浅草回りをしたりしましたが、今年はしてないので増えてないですね。

小田 去年はプロテイン会社を新規で取ったり。ラグビー部で栄養食品としてプロテインが絡むので、ラグビー号でどうですかと開拓してたと思います。企業のお問い合わせフォームみたいなどころから入ってアポイント取ってという。

——業務担当は貧乏くじなの？

永池 まあ、そうですね（笑）

涌井 仕事のめんどくささは一番ある。外の企業の方と話すのでスーツは着て
いかないといけないし。早稲田の中ではないんですけど。

—— 広告回りの辛さは今は知らないかも。

石井 みなさんの積み重ねでいまがある（笑）

—— 広告を取らないと赤字になると。次の代に借金を渡さないのがゴールだから。いくつか上の代はアルバイトして返してた。

涌井 今年はなんとか黒字なので。去年、レガッタ号用に浅草は店に飛び込んで、
小さい50000円のものとか集めました。

小松 レガッタ号は面数があるわけじゃないんで。たくさん集まりすぎてともい
うこともあります。1面に早スポの購読募集とか2、3面は記事だけとか、広告
のない号はプールしてるお金で作ってます。4面だと、先日の10月号は20万ぐら
いで作れるんで。単純に動いてるお金が少ない。変更する前は当然、赤字でした。

野球号はギリギリで、去年の代でついに赤字になっちゃって、どうしていいこうかと。定期読者は高齢の方が多くんで、ゆくゆくは読者が減っちゃうなど、しりすほみになる傾向にはあったんです。移ったのはまず製作費をリーズナブルに挙げることと制作環境がいいことでした。

永池 かなり良くなった。

小松 キレイで広い。日刊は狭くて。10面作ったら面担当10人いるのに日刊は席が6つぐらいしかなくて。入れ替わりにタリーズコーヒーに行かなくちゃいけない。記録担当もくるんで。

永池 校閲が来たらアウトだった。

森迫 近くのデニーズに行ったり。

小松 一つ上の坂巻編集長がこういう変更の話があるよと。神奈川新聞の人が東日印刷の話を持ってきた。移るなら下の代からと僕の代に回ってきた。見学に行ってこれは移るしかないなど。日刊で40年やって、日刊に移る時に神奈川新聞

の仲介があつたらしくて、その責任があるから、こういうのもあるよと教えてくれたとか。

10月号で10万ぐらいは安い。今は面担以外も20人ぐらい印刷所で作業ができる。休憩スペースもあつて疲れてるときは寝てたり。

永池 慶応スポーツもスポーツ法政もいます。

森迫 日体大スポーツもいる。

小松 僕がほとんど独断で判断しただけなんです、移って良かったですね。

永池 ナイス判断でしょ。

印刷所変更について面白い話があつたので補足する。

東日印刷を紹介されたのは神奈川新聞社の人だったという。どういふことか。日刊スポーツ印刷社で長きにわたつてお世話になつていた藤井辰夫氏が日刊を定年で退職されて、神奈川新聞社の営業局に転職される。藤井さんは日刊在職時、多くの学生新聞の制作を見守つてきた。ただ、作業部屋は狭く

てたくさんの方が学生が集まって仕事ができないことを気になっていた。また、費用も高いと思っていたという。

「環境よく、費用の負担も軽く。学生スポーツ紙が元気でいいものを出してほしい」

東日がお客さんとして学生新聞を探していたことも耳に入っていた。日頃から製紙業界と関りのある藤井さんは日本製紙の後藤貴司氏に連絡を取る。後藤氏は斎藤佑樹と早実の同期、甲子園で優勝した時のキャプテンだ。早大野球部から日本製紙に入社して社業に就いていた。後藤氏とご自身が入って東日印刷を紹介した、という流れがあったのだという。

また、制作費はまず早スポから神奈川へ支払われ、外注扱いで神奈川から東日に支払われているという。スムーズに安価でそれぞれに傷みなく。

「活字を大事にしてほしいんです。学生に携わってきて、これからも育てていかないといけないと思ってるんです」。藤井さんの愛情があったのだ。



印刷所での入稿作業

カメラレンズは数十万の純正品

——今年紙面もいいと思う。

石井 小松君のおかげです。批判を恐れずに。

小田 7月号のラクロスの号から良くなった。

石井 辻（2012年卒・スポニチ勤務）先輩のおかげで、ご教示いただきました。

小松 ア式号外のグラフィック寄りもありだと。辻さんは分かり易くて説得力があるので。

永池 日刊は7月号とかカラーができなかった。今は1面も特別号以外でも色を使えるようになりました。

小池 お金をしぶらなくなった。カラーですべ

ての号を作れるのはいいことなんで。日刊ではお金がなくてカラーができなかったということになりますね。

—— 10月号も1面もよかったし、裏も派手だったし。

永池 自分が作りました(笑)

小松 今までみんな自己流で作っていたのを、辻さんに軸を教えてもらったんです。こういう考え方で作るんだよと。今までの早スポと何が違っていたかもわかったの。凸版を主語、述語をしっかりとると。今回の準硬式で、4年生の力で優勝したんだよというのを分かり易くしなきゃいけない。それがスポーツ新聞の作り方だと。

今までの早スポは雑誌っぽくグラフィック重視で格好のいい2文字を乗っければいいみたいなのがあった。58、59期はそういう作り方だった。

永池 10月号の1面はだいたいこういう感じにしたいんだよねと。ああ、じゃあ、もうちょっと見出しを大きくとか、色味がどうか編集長と相談しながらレイア

ウトします。

小松 端末の機械を動かせるのが部分的には3、4人いて、全部できるのが僕なんで。移転して操作も違うものになったんで覚えればいいだけの話かなと。慶スポがやってるんで不安はなかったですね。

——カメラはみんな持ってる？

小松 続けてる人はみんな持ってますね。

永池 このメンバーもみんな持ってます。

小松 先輩から安く買ったたり、自分で中古を買ったりとか。

小田 部のものとして70万ぐらいのレンズがあります。純正品でしょ。キャノン
の。

永池 雑な扱いしてるけど高い。

小松 ありがたく思ってたね（笑）前から高いレンズがありましたけど、僕たちの代で部費を出して増やしました。いい試合があるのに撮れないもったいない。室

内の競技は特に性能がいいやつじゃないと。

森迫 部のレンズは9本？ 10本ぐらいあります。100mm、400mm…

小松 でも足りない日は足りない。

永池 本体も足りない。足りないのとレンタルする。写真は早スポに入ってきて撮れるようになる。先輩に教わります。最初はあとは押すだけで、ピンとも合わせ、設定から先輩に教えて頂いて。慣れてきたら設定も自分でやっていけるようになります。

箱根駅伝とスポーツランキング

涌井 箱根は前ノリします。自分達の車で行って車中泊したり。応援部の取材をする人もいるので彼らは応援部の車に乗せてもらっているかもしれない。1月2、3日は帰省してる人は来ないです。ツイッターで順位を速報するんですが、テレビを見ながらなんです。

永池 現地の方はカメラなどに追われるので。

石井 記事を書く人もあえて家でテレビ見ながらということもあります。

永池 全体像が見える。

小松 カメラはきつい。みんなが集まってじゃないので。大平台は地獄だと思います。

石井 取材は競走班で総出です。

永池 競走班以外で新聞は配る。

小松 配布は楽しいです。

永池 早スポ、といった瞬間にはけるので。

小松 部数は明ラグといい勝負。15000部ぐらい。

石井 走者の来る数十分前になくなっちゃいます。

永池 「もうないの」って怒られることがある。

小田 早めに配るとなくなるので、一回、ストップしてとか。

永池 何部いいですか、閲覧用と保管用にいくつ欲しいとか。

森迫 配るつもりなくて、柱の陰に置いておいたのに、見つけられて「これ、もらっていいですか」とか（笑）ダメとは言えない。

永池 タイミングをずらしているのね。新聞の束をスーツケースに入れて運びます。

石井 明ラグはハイエースを借りて持つて行く。箱根は一つの中継所に平均5人ですね。

—— スポーッランキングはやらない？

小松 やめたのは2年前の新津さんの代かな。

小田 そもそも知らない。

石井 競技スポーッセンターの人に、やらないの、と言われて初めて知った。

小松 三つ上の編集長の時はありました。止めた理由としては自己満足感が強いんじゃないかということだと思えます。

——自己満足で1位になって嬉しいという企画。自分たちは9位だったけど
(笑)

小松 点数も勝手に決めてるだけですよね。

石井 地方で負けてるのに全国で勝ってるからとか。矛盾してるところはいくら
でもある。

小松 客観性が低くて、どれだけ意味があるのか、となったと思います。

石井 ビックデータでやってみないと。

——やりたいと思わない？

小松 思わないですね。

——「昨年の「早スポマガジン」はどうだったの？

石井 ダメでした。さばけてない

永池 言っちゃったよ(笑)

小松 倉庫にたんまりあります。でも、トライしたことが良かった。

—— 広告取ればよかったなとか。販路どうすればよかったとか、課題は見えたね。

小松 持続可能じゃなかったと。

石井 あの二つ上の先輩たちがいたからできたこと。

小田 グラフィックに特化した人がいたから。

石井 デザインのほぼ、9割を一人でやってた。

—— 毎年、何か色を出したいわけでしょ。

小松 今年は印刷所を変えたことですかね。

永池 それは相当、貢献してるぞ。

帰宅途中、スマホで原稿執筆

—— 野球の取材はロッカールームに入れる？

小松 ロッカーは入れませんが、すぐ前までは行けません。選手が出てきて他のメディアの方と一緒に、例え



ば加藤主将を囲み取材でスマホを出して録音して。

永池 今はメモで書き留めるのは無理ですよ。ちよつと、ゆっくり待ってください
いみたいなのは（笑）

小松 その日にアップするので帰りの電車の中で書きますね。

永池 スマホ上で起こして、やっちゃいますね。そうしないと記事が遅れちゃう
ので。

——速報性、即時性重視？

小松 記事は生もの、って野球チーフは言ってるよね。連戦なのでその日にやっ
てしまわないと。

——加藤以外のコメントは他に乘らないので、独自性はある。ホームページの
ない世代は1、2、3戦見て全体としての原稿だった。1試合の興奮なんてどこか
に行っちゃって。

石井 昔は大局的な客観的な記事ですね。

永池 東大戦なら東大戦をまとめた記事。

—— コメントをストックしていく感じ。コメントを出すのは新聞だけなのだ。

石井 コメントを楽しみにしてるファンは多いんです。

永池 スマホで打ってチーフにメールで送って、表記とか確認する。上げるのは責任もって、チーフですね。

—— ページビューとか確認できるの？

石井 記事ごとに見れます。チーフが1か月に1回、ランキングを発表してくれる。メジャースポーツとマイナースポーツも分けてくれるんで。

小田 あれ、ランキング入りするとめっちゃ、嬉しいね。競走が多い。上位独占の時もある。

永池 サッカーが入ってくると、意外だなと驚いたり。

石井 有名な選手が去年はいました。

永池 4人、Jリーガーになって試合も出てますが、今年はいない。

小松 女子がアイナックに勝った時はページビューがすごかった。

石井 女子の方がマメなんでちゃんと見てくれてる。写真も記事も。ツイッターも見てくれてる。

永池 本人もリツイートもしてくれる。そんなファンもいる。年々、増えてる気がする。

人気も野球、ラグビー、競走はベスト3。基本は変わらないですね。ページビューも変わらない。

小松 数字で表れても変わってない、まったく。むしろ実感してる。

石井 ツイッターの「いいね」の数は他の部活の方が多いんですけど、結果的にビュー数はその3つが多い。

永池 ツイッターからのリンク数はサッカーが多いかもしれませんが、ホームムページでご覧になる方がけた違いに多いので。

選手との温かい交流

——自分のところは弱くて、強いスポーツが多いと楽しいんだろうなど。それと、それほど強くない部に取材に行くとき選手との密度、濃度が違うでしょう、選手と記者の距離が近いのかなと。野球の番記者は僕の時もあったんですが、それほど近い距離感ではなかった。一線を引くような感じだった。

小松 難しいんですが、ぐいぐい行くのもちよつと違うと思うし。

石井 向こうが来てくださったら仲良くすればいい。ラクロスはいやあもう、楽しかったですよ。去年は関東で優勝して名古屋、京都に行っただんですが、4年生がやさしくて、「石井君、やつと来てくれた、早く集合写真を撮って」みたいに。勝ち上がれば他のメディアが来るんですが、ぼくを信用してくれて視線は僕の方に向けてくれて（笑）信頼関係は築けた。対談を何人もしたり、ミーティングに一人で入った時もありました。選手も「43番目に登録された部活なのに、ありが

とう」と言ってくれた。

——五輪に出るであろう水泳の渡辺一平と仲のいい人はいない。

石井 競泳チーフは卒業するときにインタビュもしてるので、普通に話せると
思います。

——現役で東京五輪に出る人は？レスリングの須崎は48キロ級で世界選手権で
ダメだったんで、今度、あらためて3人ぐらいで代表選考会でやると思います。

石井 水泳の大村、牧野さんとか選考で勝てば。パラリンピアで冬季の村岡さん
がいる。部に入っていない人もいるしね。

——部に入っていないと追いかけない？

永池 そうですね。人間的にも。Eスクールの人も美味しい卒業の時に聞くとか
(笑) フィギュアスケートの羽生も早稲田の学生とは思えないでしょう。

——仲のいい選手とノートの貸し借りとか。

永池 ノートとらないです(笑) スライドを写真とって、アルバムで共有みたい

な。試験前に頭のいいやつがまとめてくれて。

小松 共有っていい言葉だよね。

SNSをフル活用

—— 年始めにこれくらいという予算を作る？

石井 そこはやってないですね。

小松 決算だけやる感じじゃない。

石井 ここ数年、変わってない。最終的な収支ですね。号外を出すのは部が出してくるんで。

小松 (秋のリーグ戦で) 野球は優勝したら号外出します。細々とした可能性ですが。

—— 活動のプライオリティは新聞にある？

小松 これがまた今は微妙です。

——もうからないけど新聞はやるんだという。ホームページは広告が出るようになったけど。もうかってる？

石井 細かいところはどうなってるんだらう。外部サイトに配信とかします。ただ、あるサイトは止めました。

小松 59期の先輩たちの時に記事を提供していたんですけど、早スポの記事をそのまま転載か、新たにサイトのために書いた記事を載せるのか。後者の時にこちらになんの確認もなくタイトルを変えられたり、記事の中身を見ると都合のいいように変えられたり。覚書があったんですが、契約内容の話し合いをしたいと。他大の中でも不満が出てきてたんです。そうしたら、契約には書かないでやりたいたと。じゃあ、ぼくたちは結構ですと記事提供はやめました。他の財政難の大学は記事提供で入るお金は貴重らしいですが。そこはプライド持ってやりたいです。

——ツイッターは専門がいる？

小松 記事更新はそれぞれのチーフがやっています。

石井 体裁を整えたり、統一感があるように決まり事通りにやるように。

永池 ダイレクトメッセージが来たり反応があった時は広報班に連絡する。

小松 「これ、どうしよう」という最後には僕に回って来ます。インスタも広報チーフがメインにやっています。

永池 アカウントはそれぞれチーフが持っている。

—— 動画の配信は。

永池 やってないですね。権利的にグレーゾーンで。機材も揃えないといけない。

—— ツイッターでもできる。権利はありそうだけど、対談などはできないかな。

石井 優勝の瞬間とかできる。

—— やってないことはそれぐらいかなと。

永池 SNSはほぼ、手を出してる。

小松 今や新聞とSNSの記事ページは2大巨頭というか。いずれ、SNSが抜くんじゃないかな。

—— SNSをやるのはプラットフォームの使用料はかからない。ホームページのプロバイダーの使用料は知れてるし。でも、新聞は印刷所を使わないといけなから支出はある。新聞はコストがかかる。

小松 間違いないそうです。

—— コンテンツをどこに残していない？ 代々の写真とかホームページの写真とか。

小松 チーフが管理してますが。

石井 各部のいいシーンを入れて、と前の代が引退際に部室に置いていて（笑）前のチーフがきちんと残してくれたら、引き継いで財産にしていける。

永池 チーフの裁量になっちゃいますね。個人のサーバー、ハードディスクに残ってるということですよ。

石井 班で共有アカウントを作ったりして。

小松 現役のものがありますけど。

——アーカイブで残していくといいと思う。新聞をやってきたから紙は残ってる。ホームページはスタートしてから記事は削除してるの？

小池 どうなってるんだらう。

——ツイッターで絡んでくる外部の人はいる？

石井 リプを返してくる人はいます。

永池 毎回、「いいね」してくる人はいますけど、コメントをするとかはない。

涌井 関学スポーツは人格を出してやってる。「私、取材行きました」というような。

永池 早稲田でそのやり方で需要があるのかどうなのか。

石井 僕たちを出したところでねえ（笑）

永池 事実の発進は記事を見て頂ければという。誰が行ったとか関係ない。

——草創期の人、昔はモノ申すのが学生新聞だと思ってるから（笑）野球部どうしたとか。記者の目というコラムを作って、大学スポーツ、こうしよとか書いた世代もあった。神宮の球場長に大目玉食らったことがあったり、新聞売るなど。

投げかけにラジカルなところはあった。自己満かもしれないけど。

小松 偉そうなことは言えないです。

永池 記事の最後に奮起を期待したい、とか書くぐらいで。

小松 その部活を一番知ってるのは早スポだよと伝えられればいいんで。それ以上はないです。

——俺たちは明治みたいに体育会じゃないし、と独立心が昔はあった。

小松 度胸はないですね。部員もいろいろいて、みんな考えてるわけではないんで。大学スポーツはどうあるべきか、体育会がどうあるべきか、は語っても筋違
いかなと思う部分もあるんです。

新聞作りは自己満足でいいんだ

——「早稲田スポーツ」はいつまで新聞という形態を出すんだろう？ 読んだ情
報は既に見てるものだから。

永池 毎日出してるわけでもないですからね。

小松 形で残ることの価値がどこまで続くか。

—— 新聞は紙代もこつち持ち。スマホは読む側の通信費程度。新聞は購読費が4000円かかる。どうなっていくんだらう。

小松 でも、紙で出来上がって形に残るのは作ってる身としては満足感はありません。

永池 手元実感できるのは嬉しい。

—— 普段は配布してる？

永池 してませんが、もらってくれるのは年齢層高めの人です。ベンチに拠点を作って校内はそういう人を狙って配る。ご年配の方とか先生とか。新聞という文化を知ってるのがそういう方なので。

小松 体育会の方は取ってくれる。

永池 所沢は体育会の率が高いけど本部キャンパスは低い。本部の人は手に取っ

ていかない。ビラ自体、いいですという。フリーペーパー的なものはいらないですと。

——自分の20年前とは、もらう率が圧倒的に減ってるなど。早慶戦では自分たちは1万部は刷ってた。今は減ってるなど。ラグビー号も2万部を刷ってる。

小田 そんなにですか。

——早明戦は人気で往復ハガキに書いて抽選でチケットをとる。インターネットがなかった時代。

小田 今はラグビー部にお願ひしちゃってます、ここ2年ぐらい。以前はラグビーショップのカンタベリーに並んで買っていた。

——箱根駅伝号で何部？

小田 1万5000部ぐらい。

——やっぱり少ないですね。インタラクティブなことは新聞もらえたこと。喜んでもらえるのはそこ。「いいね」もないし、コメントもないし。リアルタイムの

反応がある今は、幸せなことですよ。

学生にスポーツを伝えるぞ、と思ってやってた。神宮の早慶戦はお客さんもいて反応もいい。早稲田の学生に良さを分かってもらおう。学生に一番、もっとスポーツの良さを分かかって欲しい、だから報道したいと。そこが根本だった。

学校で配るのは原点だけど、今は学生に配る意味はあるのかなあ。チラシ扱いされるのに。喜ぶ人のためにやればいい。ネットはまさにそうだから。はるかにファンは広がってるのかなと思うけど。

永池 今は学生に向けては、ないですね。部の方、関係者、保護者の方、競技が好きな人、特定の選手のファンに届けばいいかなと。

——マイナーな部の連中との関りは楽しかった。野球とかメインと紙面の扱いが違うだろうと言われるけど（笑）マイナーな競技のキャプテンでも家族もいるわけだから。

小松 その温かさが嬉しくてやりがいがあります。

石井 試合会場で親御さんから、早スポさんですか、と声をかけてもらえると嬉しい。

小松 それはマイナーの方が多いです。

石井 地方の親御さんは東京の子供のことはわからない。点を決めただとかトライしたんだとか、早スポで知る。

小松 対談を地方メンバーだけで組んだらキャプテンだけの対談よりページビューが伸びたことがあった。

どこを向いて作っているのかと考えると、僕らが入った時に早スポは自己満足かという議論があつて、自己満足でいいじゃんと思つて、やっています。

永池 ある一定のファン層がいるならそこに向けてで、いいんじゃないですか。

—— 読んでくれること意識して書くわけでしょ。自己満足だけではなくて？

小松 需要にこたえる、応えたいことを充足させるのも自己満だと。その欲望を満たす。

——芸能面は超自己満だった。機関紙じゃないんだから何やってもいいだろと。小松 需要にこたえるためだけに、やりたいことを曲げようという思いはない、っていうのはあります。言い方としては。

——チャレンジする企画が少ないのかな。

永池 ブランドを保つために
じゃないですか。

石井 信頼してくださって、
続いているので。挑みすぎて
信頼関係を切ってしまうのも
。。「早スポマガジン」で美
男美女企画をやるうとして、
卓球部からダメと言われて企
画自体、全部をやめました。



小松 ぶっ壊してという欲がない。

永池 変えられる分だけ変えてベースはある程度残して。一年の流れ、フローチャートはあるので。その中でどう工夫するかと。写真、記事の小さな部分で工夫できるか。草創期の方は、やってやる、みたいなものは大きかったらと思う。

—— みんなには失礼な言い方にもなるけど、今度、入る1年生は何をやるか想像できちゃうかも。未来の早稲田スポーツは今の延長線上にあるような気がする。飛んでる奴が出て来て株式会社、営利団体にするかとか。

石井 それも面白いですね。いつも何かに挑戦することを忘れちゃいけないと思います。「早スポ」の根本精神ですからね。



早稲田スポーツ
新聞会

付録

早稲田大学体育各部記録集

2010～2019年

早稲田大学体育各部

2010年からの栄光の歴史

(成績は主なもの)

平成22年度

年度

2010.4~2011.3

●大学スポーツランキング 1位	箱根	ラグビー	野球
	総合V	対抗戦V	春秋 ^② 春 ^①

野球部の斎藤佑樹が4年生で主将。秋のリーグ戦で勝ち点と勝敗が並んだ慶大との優勝決定戦を制す。明治神宮大会も東海大を破って優勝。斎藤、大石、福井はドラフトで1位指名を受ける。ラグビーの主将は有田隆平。山中亮平がスタン

●野球、ラグビー対抗戦、箱根駅伝の3冠達成

部

学生王者への戦い

庭球	インカレ男子シングルス優勝(伊藤潤)、男子ダブルス優勝(富崎優也・佐野紘二)、女子シングルス優勝(桑田寛子)、女子ダブルス優勝(伊藤絵美子・岩崎舞)、全日本大学対抗テニス王座決定試合男女優勝
漕艇	インカレ男子舵手付きフォア優勝
剣道	インカレ男女優勝
水泳	インカレ200mバタフライ優勝(星奈津美)
競走	インカレ男子100m優勝(江里口匡史) 男子棒高跳優勝(笹瀬弘樹)、大学駅伝3冠
スキー	インカレ男子優勝、女子大回転優勝(水口かおり)、男子1.4スプリント(クラシカル)優勝(柏原暢仁)、男子10km(フリー)優勝(柏原暢仁)、男子30km(クラシカル)優勝(宮沢大志)、男子4x10kmリレー優勝、女子14kmスプリント(クラシカル)優勝(古谷沙理)、女子5km(フリー).. 優勝(古谷沙理)、スペシャルジャンプ、団体優勝

		2011.4~2012.3			年度	平成23年度
		箱根	ラグビー	野球		
<p>●大学スポーツランキング 2位</p> <p>競走部が関東インカレを7年ぶりに制し、男子は53年ぶりにインカレも総合優勝。しかし箱根は八木主将が走れず、東洋、駒大、明大に次いで4位陥落。野球は土</p>		4位 往復 ^② ④	対抗戦2位 全国2回戦敗退	春秋 ^⑤ ②		
		競走	弓道	漕艇	庭球	●大迫傑(2年)が活躍 女子バスケが史上初インカレV
	スキー	インカレ男子優勝、男子1500m優勝(大迫傑)、男子棒高跳優勝(世瀬弘樹)、男子やり投優勝(ティーン元気)、女子200m優勝(陰山愛)	インカレ優勝(岩本真実)	インカレ女子総合優勝	インカレ男子シングルス優勝(片山翔)、男子ダブルス優勝(伊藤潤・廣田耕作)、女子シングルス優勝(桑田寛子)、女子ダブルス優勝(田中優季・大竹志歩)、全日本大学対抗テニス王座決定試合男女優勝	部
	スケート	インカレ女子優勝				学生王者への戦い
		日本学生氷上競技選手権スピードスケート500m優勝(森永一帆)、1500m優勝(小田卓朗)、3000m優勝(白井大陽)、5000m優勝(白井大陽)、2000mリレー優勝、チームバシユート優勝				

<p>早稲田スポーツ編集長 佐藤啓太 (52期)</p>		<p>生主将、大野健介がエース、市丸捕手。岡村猛氏が18代監督に。春は勝点1のみ。秋に8勝4敗で2位に。ラグビー主将は山下昂大。選手権は関東学院に28-26で敗れる。女子バスケットが創部から55年、インカレ初優勝を飾る。</p>									
競走	ア式	<p>水泳</p>	漕艇	<p>少林寺拳法</p>	ラクロス	ウエリフ	軟式庭球	フェンシング	レスリング		
男子1万m優勝 (大迫傑)	優勝 (富山貴光)		<p>日本選手権200mバタフライ優勝 (星奈津美)</p>		<p>全日本選手権大会女子舵手付きクオドル優勝</p>	<p>インカレ総合優勝</p>	<p>インカレ男子優勝</p>	<p>全日本大学対抗女子選手権女子63キロ級優勝 (吉野千枝里)</p>	<p>全日本大学王座決定戦女子優勝</p>	<p>全日本個人選手権女子フルール優勝 (平石典子)</p>	<p>インカレフリースタイル60キロ級優勝 (石田智嗣)、84キロ級優勝 (山口剛)、96キロ級優勝 (大阪昂)、グレコローマン96キロ級優勝 (大坂昂)</p>
		<p>日本一へ 世界へ</p>									
		<p>△夏季ロンドン五輪▽</p>									

2012.4~2013.3							年度	平成24年度				
							部	●野球部 春のリーグ戦を制し、大学日本一に ロンドン五輪で星奈津美が銅メダル				
									学生王者への戦い			
●大学スポーツランキング 1位	野球は岡村監督が就任、春のリーグ戦で優勝し、全日本大学選手権でも優勝した。MVPは1年生の吉永投手。主将は佐々木孝樹。主力は有原、高梨、杉山、地引ら。ラグビー主将は上	箱根	ラグビー	野球	庭球	漕艇	水泳	競走	スキー	スケート	ア式	
		5位 往復②⑧	対抗戦④ 選手権ベスト4	春① 秋② 全日本V	インカレ男子総合優勝、女子舵手付きクオドルプル優勝、女子舵手無しペア優勝(森田・谷川)、女子シングルスカル優勝(大石)	インカレ女子バタフライ100m&200m優勝(星奈津美)	インカレ男子400mハードル優勝(野澤)、男子4×100m優勝、男子4×400m優勝、女子100mハードル優勝(紫村)	インカレ大学対抗女子優勝、コンバインド・グンダーセン優勝(傳田)、クロスカントリー・スプリント1.2kmクラシカル優勝(本山)、クロスカントリー・リレー女子優勝	全日本学生スピードスケート競技選手権男子1500m優勝(赤神)	男子インカレ優勝		

早スポ編集長 楮佐古博文 (53期)	田竜太郎。対抗戦は3敗。選手権は帝京に完敗。主力は原田、中鶴、西橋ら。									
出場者	馬術	レスリング	フェンシング	軟式庭球	バドミントン	ソフトボール	少林寺拳法	漕艇	水泳	スキー
大村朱澄 (カヌー/カヌースプリント女子カヤック)、デイーン元氣 (陸上競技/男子やり投げ)、九鬼巧 (陸上競技/男子4×100mリレー)、榎原春奈 (ボート/女子シングルスカル)、吉田麻也 (サッカー男子)	インカレ優勝 (照井)	インカレ女子 51キロ級優勝 (田中亜)、フリースタイル 96キロ級優勝 (山口)	全日本学生王座決定戦男子フルール優勝、インカレ男子フルール個人優勝 (北川)	王座女子優勝、インカレ女子シングルス優勝 (石井)	インカレ男子ダブルス優勝 (古賀、斎藤)、女子シングルス優勝 (玉木)	男子インカレ優勝	全日本学生大会男子の部優勝	日本一へ 世界へ	全日本選手権女子舵手無しペア優勝 (森田、谷川)	全日本選手権女子スプリント 1.1km優勝 (古谷)
								水泳	女子200m バタフライ 星奈津美 銅メダル	夏季ロンドン五輪

平成25年度

年度

2013.4~2014.3

●大学スポーツランキング
1位

野球部の主将は東條。4年生投手に横山。春は明治、法政、立教に勝ち点を落とす。秋は明治、法政に敗れる。ラグビー主将は垣永。主力は芦谷、金、須藤、黒木東星ら。早明戦は雪辱するが、選手権は決勝で帝京に34-41。

部

学生王者への戦い

●瀬戸大也(1年)がバルセロナ世界水泳で金メダル

野球

ラグビー

箱根

庭球

水泳

漕艇

スキー

レスリング

ハンドボール

フェンシング

軟式庭球

航空

合気道

ソフトボール

軟式庭球

4位
3往復
4

対抗戦
選手権
2優勝

4
3
春秋

田川、遠藤、全日本大学対抗テニス王座決定試合男女優勝

インカレ男子シングルス…優勝(田川) 男子ダブルス…優勝(田川、遠藤)

インカレ女子シングルスカル優勝(大石) 女子ダブルスカル優勝(土屋、佐藤) 女子舵手付きクォドルブル優勝、男子舵手付きペア優勝、女子総合優勝

インカレ男子200mバタフライ優勝(多田) 男子400mリレー優勝(多田、林、深谷、中村克) 女子200mバタフライ優勝(山崎)

インカレ女子5kmクラシカル&10kmフリー優勝(大平麻生)、女子リレー優勝

インカレグレコローマン66キロ級優勝(花山)、フリー66キロ級優勝(保坂)、フリー74キロ級優勝(北村)、全日本大学選手権優勝

男子インカレ優勝 61年ぶり

インカレ男子フルーレ団体優勝

全日本大学王座決定戦男女優勝、全日本大学対抗選手権男女優勝

全日本学生グライダー競技選手権団体優勝(早稲田LSチーム)

インカレ男子乱取団体優勝、女子乱取団体優勝、男子乱取個人優勝(森岡)

インカレ男子優勝

王座女子優勝、インカレ女子シングルス優勝(石井)

早スポ編集長 佐藤匠(54期)	スキー	渡部善斗 ノルディック複合団体5位。 宮沢大志4×10キロリレー16位 チームスプリント出場
	卓球	男子団体銀メダル、男子ダブルス銀メダル、男子シングル銀メダル(大島祐哉)
	陸上	男子4×400mリレー銀メダル(加藤修也)
	サッカー	男子銅メダル(奥山政幸) 女子銅メダル(高木ひかり、川原奈央、奥川千沙)
	ボート	男子軽量級ダブルスカル銅メダル(長田敦)
	庭球	男子ダブルス銅メダル(今井慎太郎) 女子ダブルス銅メダル(吉富愛子、宮地真知香、林恵里奈)
	野球	金メダル(茂木栄五郎)
	ソフトボール	男子ソフトボール優勝
	バドミントン	インカレ男子ダブルス優勝(古賀、斎藤)、女子シングルス優勝(玉木)
	バドミントン	インカレ男子ダブルス優勝(古賀、斎藤)、女子シングルス優勝(玉木)
	ソフトボール	男子ソフトボール優勝
	庭球	全日本選手権混合ダブルス優勝(田川)
漕艇	全日本選手権女子舵手付きクオドルプル優勝	
水泳	世界選手権男子400m個人メドレー金メダル(瀬戸大也)、日本選手権男子100m自由形優勝(中村克)、男子200mバタフライ&男子200m個人メドレー優勝(瀬戸)	
スキー	全日本選手権女子リレー優勝	
レスリング	全日本選手権グレコローマン120キロ級優勝(前川)	
軟式庭球	全日本選手権男子ダブルス優勝(桂、高月)	
少林寺拳法	全国大会一般女子初段の部優勝(北川、白井)	
△夏季ユニバーシアード▽		
野球	金メダル(茂木栄五郎)	
庭球	男子ダブルス銅メダル(今井慎太郎) 女子ダブルス銅メダル(吉富愛子、宮地真知香、林恵里奈)	
ボート	男子軽量級ダブルスカル銅メダル(長田敦)	
陸上	男子4×400mリレー銀メダル(加藤修也)	
サッカー	男子銅メダル(奥山政幸) 女子銅メダル(高木ひかり、川原奈央、奥川千沙)	
卓球	男子団体銀メダル、男子ダブルス銀メダル、男子シングル銀メダル(大島祐哉)	
△冬季ソチ五輪▽		
スキー	渡部善斗 ノルディック複合団体5位。 宮沢大志4×10キロリレー16位 チームスプリント出場	

2014.4~2015.3					年度	平成26年度
箱根	ラグビー	野球				
5位 往⑥ 復③	対抗戦② 選手権 セカンドステージ	春② 秋②				
野球部は中村奨吾主将、有原、高梨、土屋遼汰らが主力。春は勝点4同士、早慶戦で連敗し2位。秋も優勝に王	●大学スポーツランキング 2位					
	競走	水泳	漕艇	庭球	部	●中村奨吾、有原航平の野球部は早慶戦で優勝を逃す 学生王者への戦い
スキー	インカレ男子トラック種目優勝	インカレ男子200m背泳ぎ優勝(多田) 男子50m自由形優勝(中村克) 男子100m自由形優勝(中村克) 男子200mバタフライ優勝(坂井) 男子400mリレー優勝(多田、林、瀬戸、中村)	インカレ女子舵手付きクオドルブル優勝、女子総合優勝	インカレ男子ダブルス優勝(古田、今井) 女子シングルス優勝(吉富) 女子ダブルス(梶谷、林)、全日本大学対抗王座決定戦男女優勝		
		インカレジャンプ女子優勝(小林諭果) 女子10kmフリー優勝(大平麻生) 女子リレー優勝				

早スポ編集編集長 佐藤裕樹(55期)	手をかけながら1勝が挙げられなかった。ラグビー主将は大峯、布巻、小倉が主力。対抗戦は11-55で敗れるなど、帝京大が全盛だった。										
水泳		ソフトボール	合気道	軟式庭球	ヨット	自動車	レスリング	体操	卓球	バスケット	スケート
日本選手権男子200mバタフライ優勝(瀬戸)	日本へ 世界へ	インカレ男子優勝	インカレ男女乱取団体優勝、男子乱取個人優勝(鎌田) 男女演武競技対武器優勝、男女演武競技対徒手優勝	全日本大学王座決定戦男女団体優勝、インカレ女子シングルス優勝(小林奈央)	全日本女子学生選手権470級優勝(山口優、永松瀬羅)、全日本学生個人選手権優勝(小泉颯作、江畑陽太) 全日本学生選手権総合優勝	全日本学生自動車連盟年間総合杯女子団体優勝	インカレ男子グレコローマン130キロ級・優勝(前川) 男子フリー70キロ級・優勝(多胡島)	全日本種目別選手権男子跳馬優勝(小倉)	インカレ女子ダブルス優勝(小道野結、高橋結女)	(スピード部門) インカレ男子1000m優勝(小田卓朗)	

平成27年度

年度

2015.4~2016.3

●大学スポーツランキング
1位

		箱根	ラグビー	野球
		4位 往路⑤ 復路⑤	対抗戦④ 選手権 セカンドステージ	春①秋① 選手権V 明治神宮準V

●野球、春秋リーグ戦連覇 大学日本一に

部

学生王者への戦い

	水泳	柔道	漕艇	庭球
	日本学生選手権 男子50m自由形優勝(中村克) 男子100m自由形優勝(中村)、男子200m個人メドレー優勝(瀬戸大也)、男子400m個人メドレー優勝(瀬戸)、男子200mバタフライ優勝(坂井聖人)、男子400m自由形リレー優勝(荒木、中村、瀬戸、渡辺)、女子100m平泳ぎ優勝(渡部香生子)、女子200m平泳ぎ優勝(渡部)	全日本学生柔道体重別選手権大会63キロ級優勝(渡邊)	全日本大学選手権 男子舵手付きペア優勝(佐藤修、鈴木、伊藤大)、男子エイト(中村、長田、角南、石田、是澤、藤井、内田、竹内、和田)、女子シングルスカル優勝(米川)、女子ダブルスカル優勝(木野田、石上)、女子舵手なしペア優勝(北村、田口)、女子舵手付きクォドルブル優勝(亀本、土屋、榎原、木下、佐藤紫)	インカレ男子シングルス優勝(今井)、男子ダブルス優勝(今井、河野) 女子ダブルス優勝(梶谷、上)、全日本大学対校テニス王座決定男女優勝

高橋新監督が就任した野球部は河原主将のもと茂木、重信、丸子、道端らの上級生と、大竹、小島の若い投手が融合し、春秋リーグ戦を連覇。春は大学日本一に。秋の神宮大会は準優勝で史上初の4冠はならず。ラグビー主将は岡田一平。フルバックに藤田慶和。早明戦完敗。選手権も天理、東海に敗れる。		高柳龍太郎(56期)		早スポ編集長	
ア式	女子インカレ優勝	馬術	全日本ヤング総合馬術大会優勝(佐々紫苑&トイボーイⅡ)	ヨット	インカレ総合優勝
軟式庭球	全日本学生シングルス選手権男子優勝(船水颯人) 女子優勝(平久保安純) 全日本大学王座決定戦女子団体優勝	フェンシング	インカレ女子エペ団体優勝	バドミントン	インカレ男子ダブルス優勝(古賀、齋藤)
少林寺拳法	インカレ男子団体の部優勝(江原、今井、田部井、森、久保田、堂脇、鈴木隼、村上)	漕艇	全日本選手権大会 男子舵手付きペア優勝(佐藤修、鈴木、伊藤大)、女子舵手なしクオドルブル優勝(土屋、榊原、米川、木野田)、女子舵手なしクオドルブル優勝(土屋、榊原、米川、木野田)	柔道	東南アジア競技大会女子63キログ級優勝(渡邊聖末)
水泳	世界水泳 男子400m個人メドレー優勝(瀬戸大也)、女子200m平泳ぎ優勝(渡部香生子)	軟式庭球	全日本シングルス選手権男子優勝(船水颯人) 女子優勝(小林奈史) 世界選手権男子団体優勝	水泳	世界水泳 男子400m個人メドレー優勝(瀬戸大也)、女子200m平泳ぎ優勝(渡部香生子)
軟式庭球	全日本学生シングルス選手権男子優勝(船水颯人) 女子優勝(平久保安純) 全日本大学王座決定戦女子団体優勝	バドミントン	インカレ男子ダブルス優勝(古賀、齋藤)	少林寺拳法	インカレ男子団体の部優勝(江原、今井、田部井、森、久保田、堂脇、鈴木隼、村上)
		日本へ 世界へ			

		2016.4～2017.3			年度	平成28年度
		箱根	ラグビー	野球		
		3位 往路② 復路⑨	対抗戦② 選手権ベスト8	春秋⑤ ③		
<p>● 大学スポーツランキング 1位</p> <p>野球部主将は石井一成。4年は投手、竹内、野手では中澤、木田ら。柳がエースだった明大が春秋連覇。ラグビー主将は桑野。帝京に</p>						
	レスリング	卓球	ア式	水泳	漕艇	庭球
	インカレ男子フリースタイル74キロ級優勝(山崎弥十郎)	全日本大学総合選手権女子団体優勝	女子インカレ優勝	インカレ男子200mバタフライ優勝(坂井) 男子100&200m平泳ぎ優勝(渡辺) 男子400mリレー優勝優勝(瀬戸・渡辺・坂井・荒木)	インカレ女子舵手付きクオドルプル優勝(亀本、木下美、米川、石上、佐藤紫) 女子ダブルスカル優勝(木下弥、木野田) 女子舵手無しペア優勝(田口、土井)	インカレ男子シングルス優勝(小林) 女子シングルス優勝(林) 女子ダブルス(林・上) 全日本大学対抗王座決定試合男女優勝
					部	● 水泳・渡部香生子、日本選手権平泳ぎで日本一、瀬戸もバタフライで優勝
					部	学生王者への戦い

早スポ編集長 中丸卓己 (57期)	3-75の大敗。早慶戦、早明戦には辛勝したが、選手権は初戦で同大に完敗。駅伝主将は平。4年は武田、井戸。往路は武田、平、安井で健闘した。										
	ヨット	フェンシング	軟式庭球	航空	ウエリフ	射撃	合気道	日本へ 世界へ	水泳	スキー	新体操
インカレ総合優勝	全日本学生王座決定戦女子フルール優勝、インカレ男子フルール個人優勝 (松山恭助)、女子エヘ個人優勝 (才藤歩夢)	全日本学生王座決定戦男女団体優勝、インカレ男子ダブルス優勝 (船水、吉川)、男子シングルス優勝 (船水颯人)、女子シングルス優勝 (平久保安純)	全日本学生グライダー選手権個人優勝 (田中努)	インカレ男子62キロ級優勝 (千葉)、男子69キロ級優勝 (生頼)	10mエアライフル立射40発競技女子個人優勝 (千葉)	インカレ男子乱取団体優勝、男子演武対徒手優勝 (白石、小池)	日本選手権男子200mバタフライ優勝 (瀬戸)、女子100m平泳ぎ優勝 (渡部)、ジャパンオープン2016男子200mバタフライ優勝 (瀬戸)、男子200m平泳ぎ優勝 (渡辺)、女子100m平泳ぎ優勝 (渡部) 女子200m個人メドレー (渡部)		全日本選手権男子50kmクラシカル優勝 (宇田)	全日本選手権女子個人総合&個人種目別クラブ優勝 (河崎)	明治杯全日本選手権男子フリー70キロ級優勝 (多胡島伸佳)

平成29年度

年度

2017.4~2018.3

野球

春^④
秋^⑤

ラグビー

対抗戦^②
選手権3回戦

箱根

3位
往路^③
復路^⑦●大学スポーツランキング
なし

野球部主将は佐藤晋。4年
主力は大竹、柳澤、八木、
三倉、長谷川ら。春は加藤
雅樹が首位打者。立大が優
勝。秋は東大に勝ったのみ
で最下位争いという屈辱。

●バレーボール男子、4年ぶり大学日本一

部

庭球

インカレ男子シングルス優勝(鳥袋) 男子ダブルス優勝(河野・坂井)
女子シングルス優勝(清水) 全日本大学対抗主座決定試合男女優勝

柔道

全日本学生優勝大会女子団体優勝

水泳

インカレ男子200mバタフライ優勝(坂井)、男子100m&200m
平泳ぎ優勝(渡辺)、男子100mバタフライ優勝(幌村)、男子400m
リレー優勝(坂井、渡辺、幌村、井上)、女子100m平泳ぎ&200m
平泳ぎ優勝(渡部)

スキー

インカレ女子SG優勝(傳田)、女子GS優勝(小川)、女子15kmクラシ
カル優勝(滝沢)、女子SL優勝(松本)、男子NH+10kmフリー優勝(傳
田)、男子リレー優勝(山口、山下、田中、宇田) 女子リレー優勝(滝沢、
小林、渡邊)

ア式

女子インカレ優勝

卓球

全日本大学総合選手権女子優勝

体操

インカレ男子1部種目別つり輪優勝(竹中)

バレーボール

インカレ男子優勝

早スポ編集長 新津利征(58期)	宇都口が首位打者。ラグビー主将は加藤広人。早明戦は19-29。選手権は初戦で東海大に18-47。箱根は4年安井が5区で2位。清水が9区区間賞。藤原、光延も健闘した。										
フェンシング	レスリング	軟式庭球	バドミントン	ウエリフ	射撃	合気道	少林寺拳法	水泳	山岳	体操	軟式庭球
男子フルーレ団体優勝(松山)	インカレ男子フリー65キロ優勝(米沢)、女子フリー60キロ優勝(香山)	全日本大王座決定戦男女優勝、インカレ男女優勝、男子シングルス優勝(船水颯人)	インカレ男子団体優勝、男子シングルス優勝(古賀穂)、女子シングルス優勝(中西貴映)	全日本大学対抗選手権男子69キロ級優勝(生瀬)	全日本学生スポーツライフル選手権50mスモールボアライフル伏射60発競技女子個人優勝(千葉)、10mエアライフル立射40発競技女子個人優勝(千葉)	全国学生競技大会男子乱取団体優勝、男子乱取個人戦優勝(小池)、女子乱取個人戦優勝(笏田) 男子演武対徒手優勝(熊澤、桂)	インカレ単独有段の部優勝(渋谷)、三人掛の部優勝(尾形、源川、小林) 立合評価法男子中量級の部優勝(堂脇)	日本選手権男子200mバタフライ優勝(坂井)、ジャパンオープン男子200mバタフライ優勝(坂井)、男子200m平泳ぎ優勝(渡辺)	ヒマラヤ未踏峰ラジヨダダ世界初登頂(福田)	全日本新体操選手権女子種目別フープ・ボール優勝(河崎)、アジア新体操選手権女子シニア個人総合優勝(河崎)	全日本シングルス選手権男子優勝(船水)
男子フルーレ団体優勝(松山)	インカレ男子フリー65キロ優勝(米沢)、女子フリー60キロ優勝(香山)	全日本大王座決定戦男女優勝、インカレ男女優勝、男子シングルス優勝(船水颯人)	インカレ男子団体優勝、男子シングルス優勝(古賀穂)、女子シングルス優勝(中西貴映)	全日本大学対抗選手権男子69キロ級優勝(生瀬)	全日本学生スポーツライフル選手権50mスモールボアライフル伏射60発競技女子個人優勝(千葉)、10mエアライフル立射40発競技女子個人優勝(千葉)	全国学生競技大会男子乱取団体優勝、男子乱取個人戦優勝(小池)、女子乱取個人戦優勝(笏田) 男子演武対徒手優勝(熊澤、桂)	インカレ単独有段の部優勝(渋谷)、三人掛の部優勝(尾形、源川、小林) 立合評価法男子中量級の部優勝(堂脇)	日本選手権男子200mバタフライ優勝(坂井)、ジャパンオープン男子200mバタフライ優勝(坂井)、男子200m平泳ぎ優勝(渡辺)	ヒマラヤ未踏峰ラジヨダダ世界初登頂(福田)	全日本新体操選手権女子種目別フープ・ボール優勝(河崎)、アジア新体操選手権女子シニア個人総合優勝(河崎)	全日本シングルス選手権男子優勝(船水)
男子フルーレ団体優勝(松山)	インカレ男子フリー65キロ優勝(米沢)、女子フリー60キロ優勝(香山)	全日本大王座決定戦男女優勝、インカレ男女優勝、男子シングルス優勝(船水颯人)	インカレ男子団体優勝、男子シングルス優勝(古賀穂)、女子シングルス優勝(中西貴映)	全日本大学対抗選手権男子69キロ級優勝(生瀬)	全日本学生スポーツライフル選手権50mスモールボアライフル伏射60発競技女子個人優勝(千葉)、10mエアライフル立射40発競技女子個人優勝(千葉)	全国学生競技大会男子乱取団体優勝、男子乱取個人戦優勝(小池)、女子乱取個人戦優勝(笏田) 男子演武対徒手優勝(熊澤、桂)	インカレ単独有段の部優勝(渋谷)、三人掛の部優勝(尾形、源川、小林) 立合評価法男子中量級の部優勝(堂脇)	日本選手権男子200mバタフライ優勝(坂井)、ジャパンオープン男子200mバタフライ優勝(坂井)、男子200m平泳ぎ優勝(渡辺)	ヒマラヤ未踏峰ラジヨダダ世界初登頂(福田)	全日本新体操選手権女子種目別フープ・ボール優勝(河崎)、アジア新体操選手権女子シニア個人総合優勝(河崎)	全日本シングルス選手権男子優勝(船水)

平成30年度

年度

2017.4~2018.3

野球

春秋⁽⁴⁾
②

ラグビー

対抗戦
V選手権
ベスト4

箱根

12位
往路⁽¹⁵⁾
復路⁽⁷⁾

●大学スポーツランキング
なし

野球部主将は投手の小島。春は立大、明大に勝ち点を落とす。早慶戦で慶大の完全優勝を阻止する勝ち点。秋は早慶1回戦に敗れて優勝ならず。早慶戦はそこから劇的連勝した。岸本、小太刀、山岡、西岡が4年生。ラグビーは相良新監督。主将は佐藤真吾。大学選手権の準決勝、27-31で早明戦

部

●ラグビー対抗戦8年ぶり優勝 庭球は大学王座男女アベック13連覇

学生王者への戦い

庭球

インカレ男子ダブルス優勝(坂井、田中)、全日本大学対抗王座決定試合男女優勝

漕艇

インカレ女子シングルスカル優勝(米川)、女子舵手付きクオドルプル優勝(澤田、安井、松井、宇野、藤田)

柔道

全日本学生優勝大会女子優勝

水泳

男子400m自由形(井上) 1000m&2000m平泳ぎ(渡辺)、男子200mバタフライ(幌村) 男子200&400m個人メドレー(竹内)、女子100&200m平泳ぎ(渡部) 優勝

卓球

全日本大学総合選手権女子団体優勝、インカレ男子ダブルス優勝(碓塚、緒方)

体操

新体操インカレ女子種目別ボール優勝(河崎)

バレーボール

インカレ男子優勝

レスリング

インカレ男子フリー65キロ級優勝(安楽)

ヨット

全日本学生個人選手権スナイプ級優勝(松尾、海老原)、インカレ総合優勝

フェンシング

インカレ男子フルール個人優勝(松山)、女子エペ団体優勝

軟式庭球

全日本学生シングルス選手権優勝(船水)、全日本大学王座決定戦男子優勝、インカレ男子シングルス優勝(船水)、男子ダブルス優勝(安藤、内田)

準硬式野球

全日本大学選抜大会優勝

の雪辱をされてベスト4で終戦。峨家、桑山、佐々木、鶴川、宮里が4年。箱根は見せ場なく、13年ぶりにシード落ち。

早スポ編集長
坂巻晃乃介(59期)

自転車	全日本学生選手権トラック競技大会男子SP優勝(中野)、女子500m TT優勝(小泉)
バドミントン	インカレ男子団体優勝、男子シングルス優勝(古賀)、男子ダブルス優勝(小野寺、大林)
ウエリフ	インカレ女子48キログ級優勝(鈴木)
射撃	全日本学生選手50m女子ライフル三姿勢120発競技個人優勝(千葉)
合気道	全日本学生競技大会男子乱取個人戦優勝(小池)、女子乱取個人戦優勝(夢田)、男子演武対徒手優勝(白石、迫本)
ラクロス	全国学生選手権優勝
少林寺拳法	インカレ女子白緑優勝(小西、首藤)、男子団体優勝(尾形、鈴木隼、源川、刈屋、小林、常盤、水永、岩田)、男子総合優勝
水泳	日本一、世界へ 日本選手権男子200mバタフライ優勝(幌村)、ジャパンオープン男子200m平泳ぎ優勝(渡辺)、女子200m平泳ぎ優勝(渡部)
スキー	秩父宮杯全日本選手権男子NH+10km優勝(山本)、フリー男子30km優勝(山下)、男子10kmクラシカル優勝(山下)
レスリング	明治杯全日本選手権女子50キログ級優勝(須崎)
軟式庭球	全日本シングルス選手権男子優勝(船水)、全日本選手権男子ダブルス優勝(船水、上松)
ウエリフ	世界大学選手権男子56キログ級優勝(知念)、女子48キログ級優勝(鈴木)
パラスキー	アルペンスキー女子大回転座位金メダル、同回転銀メダル、同スーパード大回転銅メダル、同スーパード複合座位銅メダル、同滑降座位銀メダル(村岡桃佳)
スノーボード	出場
フィギュア	(男子)金メダル・羽生結弦
〈冬季平昌五輪〉	

早スポ編集長 小松純也(60期)		2019.4～			年度	令和元年					
		箱根	ラグビー	野球							
				春③							
レスリング	ウエリフ	水泳	日本一へ 世界へ	準硬式野球	軟式野球	フェンシング	ウエリフ	競走	庭球	部	●庭球男子は大学王座15連覇
明治杯全日本選抜選手権女子50キロ級優勝(須崎優衣)	全日本選手権45キロ級優勝(鈴木梨羅)	日本選手権女子100mバタフライ優勝(牧野紘子)		全日本大学選手権優勝	全日本学生王座決定戦男子エペ団体優勝	全日本大学王座決定戦男子優勝	全日本学生個人選手権男子67キロ級優勝(木村勇喜、男子73キロ級(知念勇樹)、女子45キロ級優勝(鈴木莉乃)、49キロ級優勝(鈴木梨羅)、55キロ級優勝(原沙織)	インカレ男子400m優勝(伊東利東也)、男子110m障害優勝(森戸信陽)	インカレ男子ダブルス優勝(木元風哉、田中優之介)	学生王者への戦い	

おわりに

早稲田スポーツ還暦の年、2019年はのちのち強く記憶に残るであろう出来事があるであろうとあった。まず、それを記しておこう。

5月1日に年号が替わり、令和が始まった。10月1日から、消費税が10%に上がった。その矢先、東日本を中心に、史上最大の台風が襲い、甚大な被害をもたらした。さらに温暖化が進めば、毎年、史上最高の気温、史上最大台風、史上例のない異常気象という言葉が当たり前のように出てくるのではないか。

そんな中、10月22日には、天皇陛下の即位礼正殿の儀が行われた。

スポーツ関連では、春先、3月にはイチローが現役を引退した。日本での公式戦を最後にしたという演出、その後の引退会見も味わい深いものだった。

また、「はじめに」でも触れたが、9月20日から11月2日まで、ラグビーのワールドカップが日本で開催され、日本チームは予選リーグを突破するという史上初

の快挙を成し遂げた。こうした「大事」が頻発するタイミンで、記念誌を出すというのも、何か特別の意味があるように感じてならなかった。

10年前、創刊50周年記念事業の際、『早稲田スポーツの50年』という記念誌を出した。新書版で448ページ、1部1000円で販売もした。なかなか立派なものだ。

その際、「10年後も記念誌を出す」ということで、毎年、5万円ずつ、OB倶楽部で積み立てをしてきた。つまり、60周年記念誌は出さなければならぬということが、必須事項だったわけである。さて、どんな内容にすべきか――。

還暦といえば、伝統的には赤いちゃんこを着るおめでたい年だ。創刊メンバーの方にとっては、学生時代、想像すらできなかったであろう「慶事」に違いない。その先輩たちは、常々、「10年後の70周年にはもういないからな」と、笑いながら話されていた。

そんな冗談とも、本気ともいえない言葉を聞きながら、やはり、大先輩の肉声

は残すべきだと思った。そこで、草創期の先輩方にご登場いただき、座談会を開催することにした。

スタート時点に立ち返り、原点を踏襲せよ、ということではない。「はじめの一步」の労苦に思いをはせ、負けずに新しいものを創造していこうということだ。これは、おそらく『早稲田スポーツ』の理念だと言っている。

その座談会では、西川昌衛さんが数年かけて書き溜めた「創刊の頃」という22万字に及ぶ自分史的な文書をお借りして、内容に深みを出すことにした。その構成をした江口先輩によると、「新たな歴史の発掘で、『50年誌』を書いたときには不明だった、新たな事実が明らかになり、書き加えた」という意義あるものになった。

ただし、昔話だけでは温故知新にはならない。第二部で、令和元年世代、現役幹部の皆さんに集まっていたいただき、60期の日々の活動模様を聞いた。

『50年誌』の原稿はもちろん、パソコンで書いたが、今はスマホで原稿を打つの

だそうだ。しかも、ゲームが終わって帰宅途中の電車の中で。その原稿は数時間も経たないうちにツイッターで告知され、ホームページにアップされる。ゲームの勝利の瞬間は、すでにインスタグラムでネット上に載っけてもいる。このスピード感には、あらためて時代の変化を感じる。先輩たちに、昨今の新聞のカラー化と大所帯になった現在の「早スポ」の新鮮さを感じていただければ、明日からさらに、現役頑張れ、と応援したくなると思うはずだ。

現役の座談会にも出てくるが、「早スポの活動は自己満ですよ」と、個人的には考えが一致した。乱暴な言い方だが、それでもいいのではないか。いや、それこそが「早スポ」本来の姿ではないだろうか。

この刊行物作成を仰せつかったのが、約1年半前。しかし、のんびり考えているうちに、最後は超特急の突貫工事になってしまった。OB会幹事の皆さんをひやひやさせ、先輩方にもご心配をおかけした。ひとえに私の怠慢の何物でもない。平身低頭！

最後に『50年誌』からほぼ、文章を引用した。諸先輩方に感謝申し上げたい。

『早稲田スポーツ』は、旧体育局、競技スポーツセンター、各運動部のみなさん、広告主の方々、神奈川新聞社、日刊スポーツ印刷社、東日印刷、早大ファン愛読者をはじめ多くの人たちの支えがあつて60年を迎えることができました。

また、清原健司（77年没・59歳）、大西鐵之祐（95年没・79歳）、日比野弘、宮内孝知、笹倉和幸の歴代会長の各氏には感謝の意を表しきれないほどのご指導とご尽力を頂いた。心から御礼申し上げます。指導者に恵まれていたことは『早稲田スポーツ』の何よりの幸せであり、財産であろう。（清水記）

2019年11月16日

『早稲田スポーツ』60周年記念誌刊行委員

清水岳志（88年卒） 辻佳亮（12年卒）

**創刊60周年を迎えた「早稲田スポーツ」
はじめての一步 これからの百歩**

「早稲田スポーツ」60周年記念誌刊行委員編著

2019年11月16日 発行

発行者——早稲田スポーツ新聞会

〒162-0052

東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学学生会館

電話 03-3207-9829

デザイン——有限会社ネオドゥー（若月清一郎）

印刷・製本——モリモト印刷

禁無断転載・複製

Printed in Japan